

令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【2年目】

P T A名		静岡県立吉田特別支援学校 P T A				
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害	<input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	178人				

1. 使用状況

寄贈物品名	長胴太鼓 [十字平置台、和太鼓用バチ]
使用学年及び人数	小学部児童70人
使用頻度	週1回音楽の授業×6学年
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の授業にて、音当てクイズ、振動を楽しむ、様々なリズムを学ぶ、郷土の音楽の良さを感じる等、各学年段階や個の目標に応じて幅広く使用している。</li> <li>・5年生の教育課程にボランティア先生(小山城太鼓保存会の方2名)の授業を位置付け、10～12月の3か月間に複数回の指導を受けている。12月の音楽発表会で発表をする。</li> </ul>
物品の使用による 変化や効果  ※1年目との違いを 含めご記入ください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生がボランティア先生から和太鼓の指導を受け、音楽発表会で発表することで、低学年の児童が和太鼓に憧れを持つようになった。音楽の時間に和太鼓を演奏できるのを楽しみにしている。</li> <li>・太鼓の指導を受ける5年生は、先輩の演奏を聴いた経験があるため、非常に意欲的に学習に取り組んでいる。洋楽器の太鼓とは異なり、縁を叩いて演奏することや、「ヤー！」などの掛け声をはさんで演奏すること等、和太鼓ならではの演奏の魅力に触れ、音楽を楽しもうとする態度が養われている。</li> </ul>
今後の活用の 見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和太鼓の音の迫力や振動は、どんな発達段階の児童でも楽しめる。リズムや叩き方を工夫すると、高学年の児童も意欲的に取り組むことができる非常に良い教材であることが再確認された。現在は5年生を中心に活用しているが、各学年の音楽の年間指導計画に和太鼓を取り入れる等さらなる活用を図りたい。</li> </ul>
その他 希望や所感など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとまった数の和太鼓を寄贈いただけたことで、友達と一緒に取り組み、迫力のある演奏を楽しむことができ、大変ありがたく感じている。</li> </ul>

## 2. 活用の様子



令和5年度の音楽発表会の様子。迫力のある演奏を、小学部の児童たちは食い入るように見ていました。



令和6年度5年生 ボランティア先生による太鼓の指導の様子。小山城太鼓保存会 大石様が、ばちの持ち方から指導してくださいました。

小山城太鼓保存会 道士井様が、「太鼓の真ん中をしっかりと叩くといい音が出る」と教えてくださいました。学校の先生以外の方の話を聞いて、真剣に取り組む姿が見られました。



令和6年度 6年生の修学旅行報告会の様子。  
修学旅行で行った「楽器博物館」で味わった太鼓の音色を友達に紹介しようとしている場面です。